



# 十戒実践講座

## 第四章 霊的遺産



あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

旧約聖書 出エジプト記 20:12



神は『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言われたのです。

新約聖書 マタイ 15:4



・・・また両親に孝行しなさい。もし両親かまたそのどちらかが、あなたと一緒にいて老齢に達しても、かれらに「ちえっ」とか荒い言葉を使わず、親切な言葉で話しなさい。・・・  
「主よ、幼少の頃、わたしを愛育してくれたように、2人の上に御慈悲を御授け下さい。」  
と（折りを）言うがいい。

クルアーン 17:23,24



わたしは宇宙の父 宇宙の母  
万有を支える太祖である  
わたしは知識の究極目的 万物を浄化するもの  
そして聖者オーム リグ サーマ ヤジュルのヴェーダ

バガヴァッド・ギータ 9 : 17



「父」とは、その天的意味では、わたしたちの主イエス・キリストのこと、「母」とは、聖徒たちの交わりのことです。その交わりとは、全世界に散っている主の教会のことです。  
真のキリスト教 307

## 霊的遺伝

私が14才のころ、父はあまりに無学で、私はその老人と一緒にいることが耐えられませんでした。しかし、私が21になったとき、父がこの7年間で学んだことに、目を見張りました。

マーク・トウェイン

### 二枚の石板

十戒は二枚の石板の上に書かれました。一枚目の板は、伝統的に「神の板」とされています。なぜなら、おもに神と人との関係に焦点が当てられているからです。この関係のエッセンスは、最初の三つの戒で要約されています。最初の戒では、ただ一人います真の神、その神への礼拝を妨げるものすべてを、偽りの神としました。次の戒では、自分に不足している性質を求めて祈り、主の名（神の性質）を虚しくしないようにします。すると、安息日を覚えて、聖なるものとするという戒に導かれます。この戒では、静かにして、再び主との絆を取り戻し、自分のものではなく、神の意志を行うため前進するよう求められます。これらの戒は、一緒にされて「神の板」と呼ばれます。神と人との関係がおもに記されているからです。

二枚目の板は、おもに隣人との関係に焦点が当てられています。これら二つの律法の板は、二つの大事な戒めと対応しています：

「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」(マルコ 12:29-30)。\*1

\*1. 旧約聖書には、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(申命記 6:5)。しかし、イエスは、「知性を尽くし、」という重要な句を付加されました。(マルコ 12:29) これは、十戒を深く理解すべきであること、すなわち、知性を尽くさなければならないことを示唆しています。戒を守ることは、「エホヴァとの契約を守る」ための、単に機械的な問題ではありません。むしろ、出来る限り完全に、神のご意思を理解しようと努めることです。そして理解したことに、全力で従いながら、生きてゆくことです。正しく理解しよう、そして良く生きようと努めれば、私たちは神を引き寄せ、神にもそばに引き寄せていただけます。そして相互的で、契約的な関係となります。盲目的で、行動に結びつかない信仰ではありません。心と、精神と、知性と力、すべてが総動員されなければなりません。

この戒の適用と、さらに内のレベルを掘り下げてゆきながら、「あなたの父と母を敬」うことが、この二つの石板見事に結びつけ、二つの大事な戒め、神への愛と、隣人への愛を結びつけているかを見ることにします。しかし最初は、この戒を字義通り守ることに注意を集めることが重要です。

### 両親を見直す。

多くの人には、父と母を敬うことは、ごく簡単なことです。たくさんの温かく、懐かしい思い出を思い出すだけでいいからです。17才の女性の参加者が書いています：

私は主がこの両親を与えていただいたことに感謝します。父は道徳的で、勤勉ですが、時には楽しさで一杯となります。ひたむきに、そして快活に生きています。誰もパパに水を差すことはできません。どうしてかといえば、雨も太陽と同じく楽しんでしまうからです。私の快活さも、パパのおかげだと思います。私を含めて6人の子がいて、家族は貧乏ですが、パパは家の改良や他のことに、実に創造的です。汚れた布でさえ、下の地下室にあるいろいろなごみ箱を分別するように魅惑的に変えて、面白がらせてくれます。

ウィスコンシン州へ家族でドライブしたとき、ラディエーターがオーバーヒートして6人の子供たちは、後の座席でおなかを減らせています。すると、パパは冷えた豆の缶詰を、温かくして、食べさせてくれたんです！車のボンネットの下にあるエンジンのそばに缶詰をおいていたようです。それを食べようとして停め、ついでに車を冷却しましたが、そのとき豆は十分煮えています。ほんとうに目出度くて、すばらしい思い出です。父を生かした、貴重でたぐいまれな能力は、私たち全員の大事なお手本です。

この人にとって、自分が敬愛した親との楽しい思い出を語ることは、比較的容易でした。しかし、他の人にとって、父や母を敬うことは、必ずしも容易ではありません。そしてある人にとっては、全く不可能としか思えません。女性の受刑者が書いています：

私にはこの課題はできません。両親が嫌いなのです。確かに彼らは私を愛していると言っていました。しかし、それは口だけです。私に両親の良い部分を思い、尊敬させようとしても、それは忘れてしまいたい嫌な思い出を思い起こさせることでしかありません。両親のことを考え始めれば、間違いなく、正気でいれなくなってしまいます。確かに両親を尊敬したいと思っていますし、いつかできるかもしれません。しかし今それはあまりに苦痛です。苦痛の中の課題です。今は、そっとしておいてください。

この方は、他の多くの方と同じように、感情に深い傷を負っており、そして、それは実際そうなのでしょう。子供のころから、そんなトラウマを持っている人がおられ、特にすさまじい虐待を受けられた方には、プロの助けが必要なおことがあります。これらの方は、この戒を守るに当たって、まず最初に、子供にころのトラウマ、精神的な傷に戻り、癒すというたいへん難しい過程を通らねばなりません。このセミナーでは、子供のころ傷となった思い出を、オープンにさせたり、よみがえらせたりするものではありませんし、両親の虐待の思い出を語らせるものでもありません。

おそらく、何らかの治療にとりこんでいただくことが適切です。しかし、このセミナーでは、両親に対する怒り、それを超える努力をしてもらいます。思い出す限りの両親の尊敬できる資質、それだけに焦点を絞ってもらうようにします。若い大学生はこう書いています：

今週の課題が、父と母を尊ぶことであつたのことに感謝します。というのは、数週間前に妹と話したときは、母や家族に関して、あまり温かい考えがうかばなかったからです。家族のうちでみられる問題を、時に深く考えるのは、必要なことですが、妹との会話からは、逆に怒りしか出てきませんでした。その会話から、互いに自分たちの思いが、間違いなかったと確認して、安堵するしかなかったからです。しかし、そのとき他の誰かがそばにいてくれて、母と父には、欠点もたくさんあつたが、いかに僕らを愛してしてくれたか、思い出すよう言ってくれたら、よかつたにちがひありません。

そこで、自分の考えを変えなければならず、母の前向きな性格を考えはじめることができてきたときに、このセミナーを受講できて、感謝しています。母の笑い、ユーモア、愛らしさ、美しさ、そして独立心、しっかりした考え、独特の個性、これらを考えると、母は本当に輝く宝石のようです。

今まで、こんなことを感じたことはありませんでした。しかしセミナー終えて、家に戻ったとき、私の心は素直になっていました。両親はそこにおいて、私の子供のころの話をたくさんしました。両親は私のことを、本当にいい子だと言っていました。そのとき、私の心は満ち足りていました。両親は、私は人生を愛し、前向きなところをたくさんもっていると教えてくれました。私は、幸福で、おそれを知らず、どこか特別で、素敵であり、生き生きして、オムツなしに走り回るのが好きな、目にいれても痛くない子だったと描き出してくれました。

神よ、母と父を祝福していただきますように。私が、両親に、悲しみよりも、喜びを与えられますように。両親は、私が子供のころのことを語ってくれるという素晴らしいプレゼントをしてくれました。自分が創り出すことも、想像することもできないような大きな喜びを与えてくださった、主を讃えます。

両親をよく考え、感謝しただけで、つい三週間前の妹との会話から、ずっと続いていた、いやなムードから、いとも簡単に開放されたことは、実に驚きです。思ってもいなかった喜びに出会えました！このいい感情と、両親のよい部分を見つめることが、今後できるよう、祈りました。

自分の両親のいい部分を見つめるということは、神が両親を見ているように、自分たちが両親を見直す努力をするということに他なりません。神からいただいた両親の性質を尊ぶことで、私たちは両親だけではなく、その源である神を尊ぶことになります。そして同時に、この性質は、この世の両親を通して、神から自分に受け継がれている霊的遺産の一部であると受け入れることができます。両親を見直して受け入れ、神が与えられた両親の性格を見つめることが、自分自身を受け入れ、ひいては神を受け入れることになることには注目すべきです。次の手記では、たとえ過去に自分が受け入れられなくとも、自分の父親にある良い性質を見つけることができるという例です：

ユダヤ教会の、最も悲しい習慣の一つに、なにかで家族の名誉を傷つけたとき、「勘当」するという習慣があります。私の父は、ユダヤ人無神論者です。私が（彼の言い回しで、）「イエスと付き合いだし」、さらに悪いことにキリスト教の牧師になったと知ったとき、父はこの習慣をいとも当然に実行しました。私に「裏切られた」と感じたことで、父は深く傷つき、晩年の10年間、父は私と話そうとはしませんでした。私は、「数のうちではなく」、「切り捨てられ」、「死んだも同然」でした。関係を改善しようとして、定期的に連絡しようとしたのですが、父はまるで、石の壁のようでした。

父の十年もの沈黙の後、ある日、父は病院にいると聞きました。私は、不意に訪れ、部屋に入って顔を見せ、どうなっているのか見てみようかと決心しました。最後に父が私を見た日から数年がたっており、私には、父が決して見たことのない髭を生やしていました。それに、私の体重は約15kgも減っており、年もとっています。父は私が「勘当」した息子であるとわからないでしょう。

病室に入ると、父は椅子に座って、静かに窓の外を眺めていました。私は、父のもつ静けさ、穏やかな性格、静かに瞑想を楽しむ才能、深く考える性向に、心を打たれました。父のかたわらにある椅子に、腰をかけ、声を変えていつてみました。「やあ、調子はどうだい？」

父は私だとはわかりませんでした。多分、医局からきた、民生委員かなにかだと考え、人生と幸福になるための道について哲学的な話を、くわしく聞かせてくれました。わたしはしばらくの間、それに耳を傾け、父の言葉を楽しみました。

45分くらい話が続き、父は人生は簡単ではない、しかしそれは永くはないので耐えなければならないというようなことを話しました。と、そのとき、私は父がイタリアの友人から学んだという、父の最も好きな表現を思い出しました。「そのとおり、"Qu'esta cuccaagna deve finire?"だね。（これはイタリアのアイロニーで、「この甘美な人生が終わるなんて」という意味です。）この言葉を聞くと、父は目を見張り、私を認めて言いました。「レイモンド、お前は、レイモンドだね？」

「そうだよ、父さん」

私たちは、深く抱き合い、父から自然と「いつもお前を愛していたよ」という声もれました。

それは、決して忘れることのできない、美しい瞬間でした。それはまるで、紅海が一度に分かたれ、水が去った地に、父と私が立っているかのようなようでした。しかし、海は、長くは分かたれませんでした。しばらくすると、父は手をほだし、元に戻って言います。「でも、私はまだお前のことを怒っている」。

「わかっているよ、父さん」。

「お前はわかっていない」、父は応えます。「お前は、私が聖としているものに、刃向かった」。

父がずっと無神論者であったことは、よくわかっています。しかし、彼が「聖」としているものとは何か、想像がつかず、聞いてみました。「父さん、父さんが聖としているものって、なんだい？」

「わしの『宗教嫌い』さ！」。我々は二人で大笑いしました。

\*\*\*

自分は父の本質的な性格を受け継いでいるんだと、このときかいま見たことを思い出しました。静かで、内省的な魂。たとえどんなに深く自分が傷ついたとしても、決して消えない愛。あの深く傷ついた、硬い心の紅海が分かつた、信じられない赦しの時、この愛は決して消えはしないことを学びました。

私が聖職者になろうと決心したとき、父を苦しめたことを知っています。私が父に恥をかかせ、私に教えようとしたことすべてを無駄にしたと、父の目にありありと浮かんでいました。同時に、彼の無神論は、真理への愛の裏返しであり、宗教嫌いは、誠実さへの愛の裏返しであり、偽善から解き放たれることが、人生を愛することだと、信じているとわかりました。今や、これは父の長所であったと理解できました。この長所が私の性格のと <いのち>のうちにあり、これを敬い続けることができるよう、祈りました。

この手記は、両親が子供をいかに扱い、あるいは虐待しても、その裏に何があるか、そしてどんな愛を持っているか知ることは難しいと示してくれます。自分自身の傷を見つめるよりも、親が子供にどんな関心を寄せ、子供の将来にどんな希望をいただいているかを見ることが出来るはずです。たとえ、子供に対してどんなふうに接していても・・・。

このセミナーを行うたびに、自分の父と母を敬うことを学ぶことは、霊的成長において決定的な段階であると強調しています。この段階が省かれ、または無視して飛び越えると、これ以上の霊的成長はきわめて難しくなります。聖痕としてつきまとう子供時代の傷は、今の関係を変色し、歪曲し、事実を誤解させ、現在の環境に対しても、おおげさに誇張されてしまいます。そこで、参加者にはこの戒に深く入り込んでもらい、自分の親たちを見直し、親のよい部分に焦点をあわせるようにします。(最初の「隣人」として、)心から自分の親を喜んで見直そうとするまで、他人との関係を築き上げるのに障害となるものをすべて取り去り、理解しようとし、すると、十戒の第二石板に進む準備を整い、心を尽くし、精神を尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、神を愛することから、自分を愛するのと同じように隣人を愛することに重点が移ります。

### 約束のある戒め

親を敬うことができるようになると、その程度に応じて、すばらしい報酬が約束されています；「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。」これを、文字通りとれば、親の扱いを良くすれば、その褒美として、神が寿命を永くしてくれると読めます。しかし、これをより深く、かつ霊的なレベルで読めば、より意味深いメッセージとなります！私たちは、「約束の地」が、地理的な場所ではないことを知っています。それは、心の状態であり、神から流れ入り、他人に向かって流れ出す、愛のきもちといえます。そのため、「主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなる」とは、肉体的ないのちの永さを指していません。それは、父と母を敬う霊的な修練によって、思いやりと賢明な分別が、より深くできるようになるという約束です。神の愛の熱と、神の知恵の光によって、日々の私たちの <いのち>は祝福されます。霊的太陽である、神の愛と知恵によって、私たちの日がますます満たされれば、その太陽は、決して沈まなくなります。；「もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、・・・」(黙示録 22:5)「数千の太陽が同時に空に昇った。その有様を想像してごらんさない。その輝きこそ至上主の普遍相の光輝光彩にたとえられましようか」(バガヴァッド・ギータ 11:12)

逆に、約束の地での日々が永くなれば、愛が欠如した状態である、寒冷の状態と、知恵が欠如した状態である、暗闇の状態は、より短くなります。この後ろ向きな状態は、めったに起こらなくなり、弱くなって、永くもたなくなります。言い換えれば、怒る時間は短くなり、恨みをいだく時間も短くなり、自分が虐待され、誤解され、不当に評価され、無視されていると感じる状態も短くなります。私たちの「日」が、永くなるにつれ、「夜」は短くなり、インドの聖典でいう「苦悩の終焉」(バガヴァッド・ギータ 2:64,65)という心の状態が、次第に訪れてきます。この心の状態では、祝福(「父と母を敬う」)により時間をさき、自分の心の傷(本物であっても、偽物であっても)をかばう時間が少なくなっていく。この点に関して、母のあからさまな批判が、実は、娘の幸せを願ってのことであったということが、次の手記に記されています：

この戒、「父と母を敬え」は、私の人生に奇跡への道を開きました。何年前か、私はこのセミナーに参加し、私の両親に与えてくれた良い性質を見極めなさいと、課題を与えられました。父は厳しいけれども、たくさんの良い性質をた

くさん並べることができました。母の番になったのですが、何も出てきません。これには、私も驚きました。初めはとても簡単なことで、しばらくの間、じっと思いをこらせば、母のいいところが次々と出てくると考えていました。：しかし、出てこないのです。そこで、どうしようもなくなって、祈りました。

私の40才の体の中に、10才の子供の心が住んでいることがわかりました。その子は、母に対して怒り、「ママは、妹が一番好きなんだ」と叫んでいます。

ああ、なんということでしょう！私の妹は、幼いころずっと重い病気で、命も危ない状態でした。母は妹に細心の注意を払って育てましたが、私のことを同じように愛していないわけではありませんでした。私の大人の心は、これを理解しましたが、この何年間、母に向けてのいかりとして、拒絶の思いと感情をいだき続けてきたことが、信じられませんでした。

これを認めた後でも、私の怒りはまだやんでいません。深く思いめぐらすにつれ、他の思いが浮かんできました。子供のころの、ある時、父が私をむち打ちしましたが、母は止めてくれなかったのです。この課題によって、父は私を愛してくれていたことを確認できました。ただ父はその時、自分をコントロールできなかったのです。しかし、母が私を守ってくれなかったことに、怒りはとけていませんでした。

早速私は飛行機を予約して、母に会いに行きました。そして、母と私の子供のころの話をしました。年老いて、しわのある顔にある、薄い茶色の瞳を見つめながら聞いてみました。「ママ、あのときどうしてパパを止めてくれなかったの？」「知らなかったの？私もこわかったの」との母の応えに、私の怒りは、すっかり溶けて流れ去っていったのです。

まるで初めてあったかのように、私たちは抱き合いました。「これだ。今、私は母を、母であるまま受け入れることができる」と思いました。私たちは、真摯なつき合いを始めることができました。この四年間、毎週、手紙か電話で、連絡を取り合っています。そして毎年、一週間くらい母の家を訪れています。

しかし、それだけではありませんでした。母を理解し受け入れましたが、最近になって、母の意向におもねり、「母の愛を勝ち取」ろうとしている自分に気づきました。私が母に感じている愛のすべては、母の賛意を得たいがためであったのです。私は、それから解放されたいと望みました。私は、何のひっかりもなく、ただ母を愛したいのです。母が好きだから、母を愛したいのです。今度は、母を私の家に招待しました。

母はとまどっていましたが、私は決心していました。自分の人生に母がいないことは寂しい、そして孫も母に会って欲しいし、母にも孫をみせたい、と言いました。数年前に、心臓の手術をした母には、大きな決心だったでしょう。すべての障害を、一つ一つ取り除き、母は我が家を訪問し、一週間ほど居てくれました。

今回、母はいろんなことを言いました。「どうして、こんなに子供が多いの？」、「働き過ぎよ」、「もっと学歴を生かして、キャリアをつめば？」。でも、私は傷つきませし、心のどこにも「引っかけり」はありませんでした。今度は、母を見つめながら聞いてみます。「ママ。ママは、本当に私のことを愛してくれてるよね」。母は、「もちろんよ。だから、あなたにいろいろ言うのよ」。生まれてはじめて、これらの言葉の内に、母が私を愛しており、幸せを心から願ってくれていることが聞き取れました。私はついに、母が私を愛し、大事にしてくれているか理解することができました。神様、なんという贈り物でしょう！

それは、素晴らしい一週間でした。子供たちは、私が母を敬っているところを目の当たりにし、彼らも母にやさしくしてくれました。母が帰る際、私は泣きました。日々、母がいないことが、寂しくてたまらないからです。それは、まるで母と初めて知り合ったかのようにでした。

「父と母を敬え」という戒は、私の人生を変えました。この戒を守ることは、30年に渡る心の傷を癒し、成長させてくれました。神の約束は、うそではありませんでした。この戒を守ることで、私の日は永くなり、約束の地での喜びに満ちています。

この戒を守ることで、この方は、永く続いていた、怒りと拒絶の感情を克服します。「賛意依存」ともいうべき、偽り

の神を認めることができました。十歳の子供の、思考と感情に支配されていることを認めることで、母への純粋な愛に目覚めることができました。

さらに彼女は、母の批判の裏、あるいは彼女が批判と感じているものの裏に、真摯な関心と愛があることに気づきました。この種の認識は、霊的成長には重要です。ライズ・アヴァブ・イトのセミナーでは、親の行為の後にある本来的な善を発見するため、親の動機への誤解や曲解の「ねじれ」を直そう、もとにもどそう、と呼びかけます。例えば、自分の親に、「怒り」があったなら、なんらかの「決意」や、「子の幸せへの重大な関心」に根ざしたものではないかと、見直してみようとしています。「頑固」や「融通のなさ」があれば、「強さ」や「確信」からきているものではないか、見直そうとします。この過程は、真剣な努力を要します。しかし、そこには、蓄積されたいやな記憶から解放される可能性を含んでおり、自分のうちにある、同情やおもいやりを育ててゆくことができます。

両親の過去の行動を、とるにたらない、つまらないものとかたづけてしまうのが、この戒ではありません。そして、注意が必要な今の不正に、目をつぶるものでもありません。しかし、親のどんな悪い行動や、特徴も、本当は親の善い性質を、曲解したり、転倒させてしまったものではないか、見直す勇気が必要です。さらに、親のうちに尊敬に値するものを見つけだし、そこに焦点を当てなければなりません。これを行おうと努力すれば、この戒の内にある約束が体験できることとなります；神が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。

この地は、いまずぐ神から与えられることに、注意すべきです。薄暗い雲の上、絶望のむこう、傷や落胆や誤解のあなたに、太陽は常に輝いています。私たちは、ただ神が住まう、雲の上にある場所に昇らなければなりません。ここでは、物事はより鮮明に、かつ天界的な眺望から見ることができます。自分の <いのち>を、より大きな視点で見つめはじめます；自分の過去、そして親の過去も同様に、新しい視点で見つめます。そして、私たちのそれぞれが、「神の像と、かたち」に創られたものとして見るようになります。これができるようになるにつれて、この戒を守ることによって約束が果たされると理解するようになり、約束の地に住む喜びを体験できます。

### 「母はいつも言っていた・・・」

親を敬うことは、霊的成長にとって、本質的なステップです。しかし、特にそれが自分を傷つけると感じるような時、どうすればいいのでしょうか？今まで指摘してきたように、愛と思いやりの目で両親を見直すことが必要です。両親の最も優れた点は、どこだろうか？どんな温かい思い出があるのでしょうか？どんな教訓をくれたのでしょうか？この戒では、自分の育ちを前向きに考え、両親がしてくれた善いことに感謝し、両親がくれた教訓を思い出そう、勧めます。若い黒人は、かつて悪い仲間の一員になろうとして、両親に反対され、親を嫌いました。しかし後で、親の視点の大事さに気づくようになり、その教訓と、自分を思っの気持ちに感謝します。彼はこう書いています：

私が幼いころ、私は神を信じずに、仲間を最も信頼していました。友人達が、私の「偽りの神」となりました。両親や兄弟たちが、友人たちや、その悪い行いについて語ろうとすることさえ嫌っていました。友人たちと私は、毎日、建設的なことではなく、「ビールを買う金を、どこで手に入れることができるか？」について考え、話し合っていました。そこで金曜には集まって、金を集めあって、ビールを手に入れようとしていました。翌朝まで飲み、次の日は、うろつき、他人をからかいました。グループでいると、自分たちが強いように感じていたからです。自分たちの敵に向かい、けんかをして、結局は怪我をしてしまいます。これは、家族が私に、悪仲間と別れなければ、いずれは必ず、牢屋や墓場行きだと諭されるまでずっと続きました。そのとき、やっと気がつきました。鏡の中の自分をみると、生まれたときにはない傷で、顔も頭もずたずたです。私は、悪友とそのグループという偽りの神に従い続け、親を敬っていませんでした。

このアフリカの友人は、自分が親を敬っていれば、大きなトラブルに巻き込まれなかったことに気づきました。次の手記では、アメリカ人の受刑者が、同じような状況を述べています。彼は、「親が私に命じたのは、人ともめ事を起こすな、ということでした」と言います。彼は刑務所にいますが、今からでも親を敬うのは遅くないと気づきます。親の言葉を思い出し、彼にかけた高い望みにそって生きようとするので、実行しました。クラスで立ち上がり、30名の受刑者の前で、手記の抜粋を大きく読み上げます：

私にとって、この戒は、両親を敬い、愛することを意味します。親が私に命じたのは、人ともめ事を起こすな、と

いうことでした。そう、異なる人格に囲まれて、これを実行するのは難しいことです。面倒に巻き込まれないようにすることは、大きな問題でもあります。今日は、コーヒー・ポットのスイッチをめぐる、ある男と口論になりました。そう、コーヒー・ポットなんです。私としても、本当に馬鹿げていると思うのですが、起こってしまったことです。そいつは、コーヒー・ポットの熱い湯の最後の一杯を注いだところです。私は歩いて行き、「どうしてポットのスイッチをきらないんだ？」と言うと、そいつは、今からきろうとしていたところだと応えます。しかし、有無を言わせず、自分でできました。さあ、開戦です。彼はいいます、「30秒かそこらで、ポットは燃え上がりやしないじゃないか」。こちらは、もう頭にきています。相手の顔に、ぐっと顔を寄せ付けると、手がぶつかって、彼のコーヒーがこぼれます。数語やりとりがあり、私が構えたので、いまにも暴力沙汰です。彼は目をそらすと、レールの向こうに歩いて行きました。20分後、彼がやってきて、さっきのことを謝りました。しかし私は謝りませんでした。

さて、今、自問自答してみます。「私は、父と母を敬ったか？」もちろん応えは、「ノー」です。ええ、私は父と母を敬い、態度で表さなければなりません。だから、わたしは彼に謝ります。

[受刑者は、この手記を、クラス中に読み上げていました。ここで、彼は部屋の反対側にいる、仲間を見上げ、直接話しかけました。「エディ、かっとなってすまなかった。」するとクラス中から、ごく自然に、拍手がわきあがりました。]

親を敬うとは、親を正当に評価し、人としての価値を見つめ、良い部分を認めることです。「コーヒ・ポット事件」の記事であったように、これは決して子供時代の思い出にふけるだけではなく、また言葉だけで賞賛するだけでもありません。今、ここで、あなたが行動し、親がいてくれた気高い目標に従って生きることで、親を敬う問題でもあるのです。先ほどの受刑者が、仲間に「敬意を表」そうとしたことで、最も深い意味で、彼は自分の両親にも敬意を表したのです。

次の手記は、犯罪が多く、麻薬が蔓延した都市で育った若者が、その環境に負けないよう母から贈られた知恵を敬ったものです。こう書いています：

シングル・マザーの五人の子、その一人であった私にもいいところがあります。厳しい躰と、ママの子供の扱い方です。そのおかげで、私は今日まで生き抜いてこれました。

ママから仕込まれた、一つの格言に、「自分の蒔いた種は、自分が刈り取る：因果応報」があります。ママは、主の祈りのように、心に見事に刻まれるよう、この格言を使っていました。正しいことをするか、悪いことをするか、いつも疑問がわきおこるたび、私はいつも正しいほうを選ぼうとしました。なぜなら、自分の行ったことは、人生のどこかで、何らかの形で、必ず同じように自分にもどってきて、自業自得となるからです。このおかげで、私は今までの人生で、誰にも殺されず、そして誰をも殺さなかった、と言い切ることができます。

私は、住宅事業から生まれたスラム街に生まれ、麻薬漬けの住民と、犯罪の中で育ちました。ここでは、「因果応報」は、完全にそのとおりです。ママはできるだけうまく伝えようとしたのですが、私は経験から、ママのこの言葉は当たっていると知りました。最もあからさまな体験は、私が7年生のころにさかのぼります。仲間たち（ママは不良と呼んでいました）と一緒に、ゲームセンターに行くことになりました。地下鉄を降りたところ、ある老人が、ぼろを着て近づいてきて、言います、「よう、兄弟。少し金を都合してくれないか。めしを食おうと、金をかき集めたが、ちょっと足りないんだ」。

友人たちと私は、こいつをからかいました、「おい、じいさん。あんたが、龍を買うのはかってだが、あんたにやる金なんかないぜ」。私は、笑いすぎて腹が痛くなりました。友人の一人が言います、「このくさい食、あっちへ行け」。私たちは、笑いながらボール遊びをして、その場を去ると、老人もその場を去りました。しかし、私はずっとその老人を見ていると、誰か少なからず金をめぐんだようで、食事をしにレストランへ入って行きました。

私はちょっとバツの悪い気分でした。しかし私も、その老人が食事するのに、金を渡すつもりはありませんでした。もう全部忘れてしまおうと、にぎやかな通りをゲームセンターに向かって、歩いて行きました。

ゲームセンターにつくと、何も考えずに金を使い始めました。6～7時間はいたでしょうが、金は使い果たし、家に帰らねばならない時間です。駅に向かいながら、地下鉄代があるかと、コートのポケットの中をまさぐりました。し



かし、クウォーター硬貨が二枚しかありません。家までは、4枚必要です。友人たちに頼ろうとしましたが、皆口をつぐんで笑っています。「ちょっと足りないんだ。地下鉄代をあと50セントなんとかしてくれ。」と言いますが、実は友人たちも、自分の分以外は、全く金を残してないようで、誰も応じてくれません。1ドルいるのに、あと50セントどうにもなりません。

どうやって帰ろうか？時刻は遅く、地下鉄もあと2本で終電です。誰か50セント貸してくれる人はいないか、周りを見回しますが、誰もいません。事実、駅には誰もいません。すると突然、笑い声がしました。振り返ると、さきほど金をせびろうとした老人がいます。老人と仲間は、地下鉄に乗り込もうと、回転式の改札口に向かっています。

「おい、にいちゃんどうしたね？」ゆっくりと話します、「こんな遅くに、こんなところに立ってんのかい？」。私は応えようがありません。すると、「トーマス、人にしたことは、自分に返ってくるものなんだよ」というママの声が、どこからともなく、はっきりと聞こえてきました。

「にいちゃん、ちょっとおいで」と老人に言われました。私は、そばに行って、50セント足りないことを話すと、よっぱらいの老人（さっきまで、そう思っていました）は、まじめにいろいろ忠告してくれました。そして、にっこり笑って、「にいちゃん、自分のやったことは、自分に返ってくるんだよ」と言うと、50セント渡してくれました。私はその金を受け取り、老人に感謝しながら歩いて行きました。とても驚きながら。

その日から、私はその言葉をいつも心に刻み、良い種をまいておこうと、できるだけ良いことをしました。今においてさえ、その言葉は生きており、間違うことはありません。ママは、これを私たちに大事なことだと強調していましたが、ママはその大事さをよく知っていたからでしょう。私はママに感謝し、ママを尊敬するとともに、この言葉をつくった人に深く感謝しています。私は、自分の子供にも、これはこの世に大事な教訓などないかもしれないが、それでも最も大事な教訓の一つなんだよ、と、教えようと決めています。

これらの手記から、親を尊ぶには、単に親について語るだけでなく、伝えてくれようとする知恵に従って生きることでも可能だということがわかります。親が伝えようとする善く、真であることを懸命に守ろうとすれば、親を侮辱するようなことを（心の中でも、または人前でも）控えるようになり、言動も、親を尊ぶようになります。親のいいところや、優しい行い、そして正しい言葉に心を注ぐことは、現実を否定することではありません。むしろ、現実のより高い次元に昇って、親を見直し、知恵を尊び、彼らから受けた霊的遺産を正しく評価することです。

## 我らの「霊的支持者」

この世の両親を正しく評価すれば、この戒のより深い意義を理解できるようになってきます。より深い意味、そこでは、天の父を尊ぶよう問われています。天の父は、善い性質すべての源であり、そのもつ性質すべてを敬えば、霊的成長も、そこを目指して進むことができます。これを行えば、人生のいたる瞬間で、神が私たちをいかに完全に導いてくださるかがわかり、感謝するようになります。聖典を敬虔に学び、瞑想するときには、特にそうです。神が「みとこばを通して」語りかける、古くからある教えに、私たちは親しんでいます。これは、おそらく、神が与える影響では、最も直接的なものでしょう。敬虔にみことばに向かい、父に声に注意深く耳を傾け、神が語りかけていると信じることに従って生きようと努力することによって、天におられる父を敬うことができるのです。新約聖書にあるとおり、「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」（ヨハネ 1:1）\*2

\*2. イスラム教の聖典では、「慈悲あまねく御方が、このクルアーンを教えられた」（55:1, 2）。そして、「それこそは、疑いの余地のない啓典である。その中には、主を畏れる者たちへの導きがある。」（2:2）。バガヴァッド・ギーター 9:17 では、「わたしは宇宙の父 宇宙の母・・・わたしは知識の究極目的・・・そして聖者オーム リグサーマ ヤジュルのヴェーダ」。そして、イエスは言いました。「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたら

しません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」（ヨハネ 6:63）。スウェーデンボリイは、この考えを、神がみことばを通して語られる様子を次のように説明しています「みことばは、人を主に結びつけ、天界を開きます。自分一人のためではなく、主からみことばを読もうとする人は、愛の善と、知恵の真理に満た

されます。：そして愛から善を意図し、知恵の真理から理解します。このように、人はみことばによって <いのち>を持ちます。」(聖典の教え3)

しかし、この戒は、「母」を敬うことも求めています。イマニュエル・スウェーデンボリィは、この点に関して、こう書いています。

父と母を敬うことは、神と教会を尊び、愛することを意味しています。この意味で、父は万物の父である神を意味し、母は教会を意味しています・・・、なぜならこの世の母が子供を、自然の食物で養うように、教会は霊的な食物で養うからです。(真のキリスト教306)

スウェーデンボリィが天界の母とは、「教会」とであると定義したことに注目すべきです。それは物質的な建造物でも、ある個人が集まった組織でもありません。「教会」という言葉は、ギリシア語の *ecclesia* エクセレンシア、からきており、「呼びかけられた」あるいは、「共に集った」を意味します。古代ギリシアでは、最初は単に、立法ほかの目的で召集された市民集會を指します。聖書学者によれば、

プロテスタント教義では、教会は目に見えない形で存在するのが、そのあり方であるとしています。なぜならそれは目に見えても、見えなくてもよいからです。目に見えない教会とは、すべてキリストに結びついているすべての人間によって成り立っています。決して外からまとまった組織ではありません。神は、そのメンバーをご存知ですが、人の目によって完全に見極めることはできません。\*3

\*3. John D. Davis, *Dictionary of the Bible* (Baker Book House: Grand Rapids, Michigan, 1980), 146.

これは、スウェーデンボリィの教えと似ており、彼は、教会とは「聖徒の集い、あるいは全世界にわたる主の教会」となるとしています。スウェーデンボリィは、真の信者の霊的な共同体を「主の教会」と呼んでおり、「聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下ってくる」と表現しています。(真のキリスト教 307; 黙示録 21:2)。

この「教会」の定義を心にとめれば、尊ばなければならない霊的な「母」とは、自分の人生に影響を与え、霊的旅路を深めてくれる無数の人のこを指していると分かり始めます。それを、「守護霊」や「目に見えない聖人」と呼ぼうとも、重要なのは、目には見えないかもしれませんが、この世あるいは天界の、霊的な支援者を、認め、感謝することです。ヘレン・ケラーは書いています：

自分の人生を振り返ったとき、最も大事な恩人は、会ったことのない方たちです。私の最も親密なおつきあいは、その方たちとの心のおつきあいです。：私の忠実で、頼りになる友人は、その方たちの精神です。私が暗闇の中で、苦難と戦っているとき、精神世界から励ましの声がかかるのを知っています。\*4

\*4. *Light in My Darkness*, 135.

すべての宗教の聖典は、霊的旅路のすべての段階で、見えない支持者—天使の集団や霊的友人—が、広大なネットワークで支えていてくれることを証しています。彼らは私たちを、守り、励まし、鼓舞し、見守る仕事を与えられています。旧約聖書にも表現されています：「まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。」(詩篇 91:11)。同じように、イスラム教の聖典でも、「本当にあなたがたの上には2人の看守(天使)がいる」(クルアーン 82:10)。\*5

\*5 人生における目に見えない 天使たちの影響をより完全に述べたものに、*Angels in Action: What Swedenborg Saw and Heard*, by Robert H. Kirven (Chrysalis Books: West Chester, PA, 1994), 3-16, 84-96; さらに、*A Book of Angels: Reflections on Angels Past and Present, and True Stories of How They Touch Our Lives*, by Sophy Burnham (New York: Ballantine Books, 1990), 79-161.

「聖徒の集い」は、来世での霊的な仲間に限られません。この言葉は、人生の至る場面で、人の温かさというミルクで養い、癒しの愛という油を塗ってくれ、霊的真理というワインで鼓舞してくれる、すべての人にもあてはまります。

それは、家族であり、隣人であり、対等の仲間であったり、幼いころから通っていた学校にいた人であるかもしれません。教会や寺院や神社、あるいは何らかの支援グループかもしれません。人生で出会う「聖徒」や「天使」とは、深く目をかけてくれた、最愛のおばや、おじであるかもしれませんし、毎朝笑顔で優しい声をかけてくれる、スクール・バスの運転手かもしれません。また、愛称で名前を呼んで、キャンディをつけて買わせてくれる、隣の食料品屋の主人かもしれません。やる気を出させる講師であったり、自信をつけさせてくれるコーチであったり、人生の谷間にいるとき、じっくり耳を傾け、支えてくれる友人であるかもしれません。これらの人は、皆私たちを霊的に養ってくれる方です。それは、霊的な助けがどうしても必要なときに、傷に、愛と同情という油と、真理や靈感というワインを注いでくれる「善きサマリア人」です。これらの人々が、「聖徒の集い」、全世界にわたる主の教会を構成します。

あるセミナー受講生は、「聖徒の集い」を、人生で「霊的に高揚させてくれ、慰め、意義をつけ、前向きの手本となるような」、すべての人々だと書いています。霊的成長の中で与えられた彼らの影響や、してくれたことを正しく評価することが、「母を敬う」ことです。次の手記では、ある受刑者が、今まで彼の人生で「聖徒の集まり」となってくれた人々を讃えたものです：

私は、この時間を使って、学校時代に私を教えてくれた先生たちを思いだそうと思います：

ミズ H、ミズ C、ミスター Z、そのほかの先生、愛と思いやりを授業に注ぎ入れていただきました。父さん、理解し、愛してくれてありがとう。父さんは、どの子もぶたなかったね。いつまでも覚えているよ。

ママ、あなたは決して人を悪くは見なかったですね。私はママには、目がないのかと思ってました。あなたは、いつも励ますだけで、決して批判しませんでした。そして、いつも正しいことと、悪いことを教えてくれようとしてました。あなたは、僕がひとかどの人間になるよう生まれついていると信じてくれました。あなたは、自由であからさまな方でした。そして心には、今でも一緒にいてくれます。

善人であろうが悪人であろうが、私が会う光栄に浴した方々にも感謝したいと思います。

それから世界中の、本を書いてくれた人にも感謝いたします。すべての著者へ、あなたがたの止むことのない守りに感謝いたします。

## 神のいたずら

「あなたの父と母を敬え」の戒をより深く理解してゆくにつれて、神がいかに見事に私たちを導き、守ってしてくれるか、わかりはじめます。私たちの誕生から、天の父はひそかに、そして素晴らしい方法でお働きになり、私たちのもつ反抗的などころをそらし、悪から救い、すべて善い方向に導いておられます。次の例は、女性受刑者が自分の怒りについて書いたものです。神がいかにか奇跡的な方法で、彼女を怒りからそらしているかご覧下さい。

(5:30 p.m.) 今日は、私にはとんでもない日でした。私はすぐかっとなり、ただ自分を守ろうとします。しかし、何かが私に、課題のことを思い出させました。そして逆上するかわりに、祈り、聖書の数節を読むようになりました。このすばらしい書には、私を苦しめ、悩ませるところは、全くありません。

(11:15 p.m.) 私は房に戻り、この手記を書いています。怒りはすべて、どこかに消えてしまいました。神は人が努力しようとするのをご存じで、そのときその人をご自分に引き寄せられます。私が先の手記を書いた後に、教会の事務所へ呼び出されました。そこに行くと、「主はあなたのために働かれています」という賛美歌を、夕礼拝で歌ってもらえないかと頼まれました。夕礼拝に出席する予定はありません。しかし、課題のことが気になっていたせいか、歌うことにしました。すると、その後ずっと、私の魂はきわめて素直でした。神に感謝します。そのみ業は不思議で、邪魔しているようで、実は助けます。

この「神のいたずら」は、怒りのあとすぐ始まったことに注目してください。彼女は「何かが私に、課題のことを思い出させた」と書いています。人生において、かっとなったりしたその瞬間、そこから気が散ってしまうことがよくあります。しかし、よく思いおこせば、それは人を永遠の幸福に向けようとする、神の優しい導き、すなわち神のいたずらであるとわかります。神はいつも人を不思議かつ、素晴らしい方法で導き、決していたずらしているのではないと認めることで、霊的成長に向けての大きな進歩となります。この女性受刑者も言っています、「神は人が努力しよ

うとするのをご存じて、そのときその人をご自分に引き寄せられます」。

次の記事は、19才の学生が、異性との交際に悩みますが、神の導きが連続して、自分の不満に向かう心を散らし、乗り越えさせてくれたというめずらしい話です。彼女は、こう書いています：

昨日は、美しく晴れあがった日でした。外で両親と座りながら、ある男性との交際について賢明な展望を両親から得ようとしていました。私は、悩んでいる理由を説明しようとしていました。しかし、話しながら、詳細なことになってゆくと、行き詰まって考え込んでしまいました。「困った、私たちの関係ってなんでこんなふうに、難しくなってしまったのだろう」。不満が出てくるにつれて、不安でさらに悩ましくなってきました。

話していると、座っている椅子のすぐ向こうに、野生の七面鳥がやってきました。(このおとなしく、わかい七面鳥はうちの家のまわりをうろついています。)鬱憤晴らしに集中しようと、七面鳥を無視しようとしていましたが、七面鳥はおかしなことをやり出しました。七面鳥は、自分の頭すべてを、背中の中の中に隠してしまい、まるで頭がないように見えます。すると、今度は、ひょいと頭を出し、また頭を隠します。それを繰り返していると、まるでむきになっている私を笑っているかのように見えます。吹き出しそうになってしまいました。どうしてそんな状態で、真顔でボーイフレンドへの不満を話し続けることができるのでしょうか？母親のスカートを、子供が引っ張るのを無視して、電話の話に夢中になるように、のどから出そうな笑いを我慢しました。数分後、女性が犬を連れて、そばの芝生を横切ります。女性はストレッチパンツをはいていますが、見たこともないくらい、けばけばしい色で、おかしさがこみ上げます。真剣にとりくまなければと思う気持ちがあるのですが、一方で、次々と面白おかしいことが、まわりに起こります。私は笑いたいのではなく、文句を言いたいただけなんですけど・・・きっと、天の父が、この「神のいたずら」で、私が不満を口にすることを止めるよう、優しくサインを送っているのでしょう。

ある友人が、神が、どう考えても「でたらめ」に見えるように無数の方法で、気を散らし、密かに導かれていることを照明するような映画を製作してみたいと言っていたことがあります。彼が書いたシナリオでは、友人同士の二人が、あるレストランで昼食をとっています。一人は、実は天使であり、もう一人を守るという使命を帯びています。しかし、その天使は、単に相手の気を散らすことを繰り返すしか、力がありません。例えば、守っている人間を撃とうとしている殺し屋が、レストランの窓の外にきました。これを知った天使は、「ああ、ごちそうさま、もう十分。急げば野球の試合に間に合うぞ!」。立ち上がった二人は、レストランを去り、殺し屋は撃つチャンスを失ってしまいます。映画の「神のいたずら」は連続し、以下のスウェーデンボリイの記述を納得できるようになります。「主は、悪から人を引き離すため、無数の方法を使われており、それはまさに神秘中の神秘です。」(神の摂理 296:10).\*6

\*6 Jonathan Rose がくれたこの例に感謝します。

この流れで、次の話を読んでください。

ある少年が、友達どうして荒地で遊んでいます。その子は、大きな赤い蝶を密かに狙っています。帽子をとって、蝶をとらえようとしてますが、失敗です。蝶は、フツと浮き上がり、避けました。少年は、熱中して、とらえるまで、追い続けようとしてます。もう一度帽子を投げますが、蝶は深紅の羽をひろげ、飛んでかわします。

そこで、少年はさらに追って、荒地の周りを回ります。蝶が誘うほどに、少年はますます追ってゆきますが、捕まえることができません。

突然、少年は少女の悲鳴を聞きます。「エフィーの声だ」、「きっとけがをしたに違いない。大変だ!でも、もう一回だけ投げよう」と考えます。少年は帽子を投げますが、蝶はまたひらりとかわします。

エフィーは、もう一度声をあげます。きっと、なにかあったにちがいません。少年は、ついに蝶をあきらめます。そして、少女の様子を見に行きます。:少女は、服をいばらにひっかけていました。でも、たいしたけがはなく、単におどろいていたようです。少年は、そばによって、とげを外してあげました。少女は喜んで、にこりと笑います。そして腕のひっかき傷をそっとなでました。

少年は悲しげに思います、「ああ、あの蝶、いっちゃった。つかまえたかったのに」。

そのとき、エフィーが喜んで手を叩きながら叫びます「見て！」。あの蝶が、少年の肩の上にとまっていたのです。\*

7

\*7 Brian Kingslake, Angel Stories (Evesham, England: Arthur James Limited, 1982), 5.

この話は、神がいかにして、人の望みをかなえるかを示しています。それは往々にして、神のいたずらが連続することで、神の王国をかいま見せてくれます。七面鳥が芝の上でおかしなことをしようが、子供が助けを呼んだりしようが、神は思いもつかない方法で、私たちの関心や不安、不満をそらし、平安の道へと導きます。

次の例は、憔悴した父親のところに、思いがけないところから、神の平安が与えられた例です：

三週間前、隣の家の人が、迷い猫を見つけ、飼ってみたいかとたずねてきました。生後二週間ばかりの、本当にかわいい子猫です。普段、私は猫好きではないので、断ろうとしました。しかし、抱き上げてみると、心がなごみ、つい、「ああ、いいですよ。」と口がすべってしまいました。

私はこのところ失業中で、どうやって家族を養おうかで頭が一杯でした。家族は皆、この状況に困り果てていました。ふところは、全く余裕がありません。15ドルの子猫用の粉ミルクを買うのは、簡単ではありません。しかし、そうするのが正しいように思えました。

子猫は、5週目に育ち、私の心に信じられないような癒しを与えてくれています。私の腕に、ぴったりおさまり、まるで人間の赤ん坊のように、温かいミルクを、一生懸命吸っています。喉を鳴らしたと思うと、寝入ってしまいました。パソコンに向かって仕事をしていると、子猫は私の足をちょんと、ひっかけ、膝の上にちょこんと乗って、気持ちよさそうに休みます。状況は大変ですが、平和な気持ちに浸れます。

まことに、摂理という見えざる手は、いつでも、どこにでも伸びています。そして、母親が幼児の手を取り、優しく危険から遠ざけるように、私たちを守り、導いています。この止むことのない摂理と守りは、人のいのちの、どんな小さな事、どんなつまらない事にも及んでいます。スウェーデンボリイが書いているように、「神の摂理は、あらゆる物事の、最も小さいところまで及んでおり、神のみことばによれば、髪の毛の一本すら、神の許しがなければ落ちることがありません。」(天界の秘義 6494) これを信じ、正しく評価できるにつれ、「母」を敬うことができます。それは、聖徒と天使、刑務所の牧師、友人、道すがらの人々、そして時には、七面鳥や子猫さえも含む、広大なネットワークであり、これらを通して、絶えず、神は導き、守られます。

### 課題: あなたの父と母を敬いましょう

この戒は、まぎれもなく「あなたの父と母を敬え」と語っています。そして、両親を敬うような何かを行い、霊的な意味において、成長できるよう養ってくれる人々に感謝するよう求めています。私たちの人生に、大切な影響を及ぼす人々がいます。彼らを訪れましょう。手紙を書きましょう。ファックスでも、Eメールでも、電話でもかまいません。あなたを支えてくれ、養ってくれたことに、感謝を表す方法を見つけましょう。さらに、天の父への祈りの中で、なさっていただいたことに感謝し、今後も続けていただくよう願いましょう。感謝のこころ、ありがたいと思うところを、あなたの祈りと、あなたの日々の仕事に向かうときの大切な心構えとしましょう。以上を行いながら、「地で、あなたの日」(幸福の状態)がいかに永くなり、天界的になり、より大きな愛と、大いなる知恵と、わき上がる生命力と、大いなる平安に満たされるか、注目してください。たった今においてさえ、これが、神があなたに与える、「約束の地」の前触れであることに気づいてください。

### 課題 あなたの父と母を敬いましょう

感謝と感恩の地に、留まりましょう。神と両親と他のたくさんの人に感謝しましょう・

この戒を守ることによって得た体験を、紙につづってください。

\*\*\*\*\*

さらなる熟慮と実践のためのヒント

\*\*\*\*\*

熟考: 「天で行なわれるように地でも行なわれますように」

この戒を、深く考えるに当たって、天界から地上へと焦点を移してゆくことになります。それは最初の石板である、神への愛から、二枚目の石板である、隣人への愛への移動です。興味深いことに、主の祈りの対応部分は、見事に訳されていて、「天で行なわれるように地でも行なわれますように」\*8 となっています。「天で行なわれるように地でも行なわれますように」という言葉を用いて深く考えながら、この戒を守る霊的訓練を行きましょう。毎日、数分この「天で行なわれるように地でも行なわれますように」だけを、心に置いてください。そして神(天の父)と、霊的旅路で自分を支えてくれるすべての人(地上の母)を、讃えることを思い出してください。

\*8. Jay Green, *The Interlinear Hebrew Greek Bible*. Vol. 4 (Lafayette, Indiana: Associated Publishers and Authors, 1981), 12. The word order in the original Greek is as follows: hos (as) en (in) ourano (heaven) koi (also) epi (on) tays (the) gays (earth). As in heaven, also on the earth. (i.e. As above /So below.)

**活動: 感謝を表わしましょう**

自然的なレベル: 産みの親と、育ての親、そして小さいころにお世話になった方々に、感謝を表しましょう。

霊的なレベル: あなたを支えてくれるグループ(宗教的そしてそれ以外であっても) — あなたの最も高い信条と信念に沿って生きることを励ましてくれる — に感謝を表しましょう。

最も高いレベル: 神に感謝を表し(父を敬う)、霊的旅路であなたを支えてくれた、そして支えてくれている方々すべてに感謝を表しましょう(母を敬う)。

**瞑想:**

親や世話をしてくれた方が伝えてくれた、「知恵の言葉」を思い出します。「母はいつもこう言っていた」、「父は・・・」、「祖父は・・・」。それは詩ですか? 諺ですか? 名言ですか? それとも聖典の一節ですか、それとも母や父や祖母が自分でつくったものですか? これらの言葉は、あなたの人生にどんな影響を与えましたか? あなたが窮地にいるとき、これらの言葉が、それを乗り越えるのに役に立ったかどうかと考えることはできますか?

**活動: 感謝ノート**

この週、感謝ノートをつけてみましょう。助けてくれた方、励ましてくれた方を記します。そしてあなたに与えた影響について、感謝しましょう。

**活動: 感謝の気持ち**

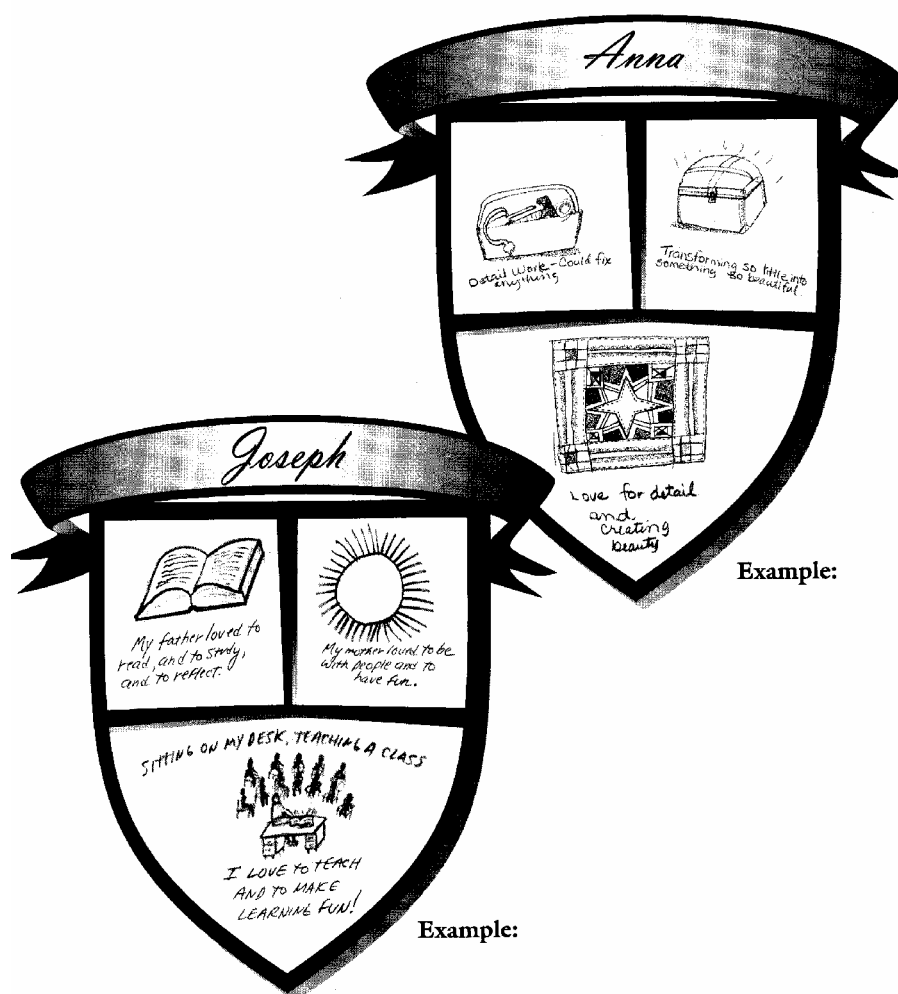
5分間、「自分への祝福を数えて」みましょう。そしてノートにリストアップします。例えば、「・・・は私の人生を幸福にしてくれた」。リストには、友人・教師・子供・親戚・ペット・食物・趣味・・・等も含まれます。

## 活動: 家族の紋章

家族の紋章をつくってみます。左上には、父のいい性格を、右上には、母のいい性格を書き込みます。下には、この二つの性格から、あなたに受け継がれたものを書きこみます。

例:  
 アンナは、父が細かいところにも注意を払い、気配りがあったことを覚えています。彼女は、これを象徴して道具箱を書き込みました。さらに、母が創造力に富んでいて、つまらないことからでも、宝を作り上げたことを覚えています。そこで宝箱でこれを象徴しました。そして紋章の下の部分には、「細かいことへの愛」と「美を創造する」の二つが結びついて彼女のものとなり、キルトでこれを表現しました。

ジョセフは、父親がとても勉強好きであったことを思い出し、本でこれを表しました。母親は、とてもまぶしい方で、これを輝く太陽として表現しました。家族の紋章の下の部分には、彼が机に座って学生に教えている姿を書きました。彼は父の勉強好きなどころと、母の明るい性格が結びついて、教えることと冗談が好きになったということです。



Example:

Example:

左上：父親の善い性格のシンボル

右上：母親の善い性格のシンボル

下部：二つの性格があなたの中にどう結ばれたかを表すシンボル

この家族の紋章を作り上げる際、いやな思い出と、両親のそれぞれの内にある、本質的にいい性格をきちんと分けて考えることが重要です。これらの性格は本来的にはいいはずですが、日々の生活ではねじ曲げられてしまうことがあります。この章で見てきたように、「怒り」と見える親の性格も、見直してみれば、「決断力」や「子供の幸福を心配するあまり」ということに根ざしているかもしれません。「頑固」で「融通が利かない」ことも、「芯が強い」のかもしれない。努力して、親の隠れた良い性格を見つけだそうとすることで、ついには自分自身の良い性格や、霊的な遺伝につながってゆきます。

